

浦ヶ霞 海水を逆流させて ヤマトシジミ復活

NPOが汽水化を提案

浦ヶ霞水系の環境保全活動を続けるNPO（民間非営利団体）法人「アサザ基金」（飯島博代表理事）は十六日、浦ヶ霞で激減したヤマトシジミを、海水を逆流させて復活させるプロジェクト二案を提案することにも、プロジェクト実現のための利根川水系常陸川逆水門の弾力的運用を国土交通省に要望した。近く余剰工業用水の農業用水転用を県と農水省に要望し、失われた汽水域を造り出す方針。

水門弾力的運用 ・用水の転用 関係機関に要望

逆水門は、同水系下流域の塩害防止のため一九六三年に完成。以後、海水と淡水が混じり合う汽水域が消滅し、モクズガニやスズキとともに霞ヶ浦・北浦沿岸に分布していたヤマトシジミが激減、地元漁協はシジミ漁業権の消滅補償を受け

た。A案は、逆水門上流八百円で取水する農業用水を上流約十六キロと二十三キロで取水している工業用水に切り替え、逆水門と並列する利根川河口堰（せき）からの放流が多く下流の塩分濃度が低下したときに水門を上げ海水を湖側に入れる。B案は、十年後に改築が期待できるといふ。両案とも工水の農水転

用が基本だが、工水と農水の送水管が数回間隔で並行する神栖町横瀬地区の県道下で両管を接続。三十万トンの余剰工水のうち五千トンを農水に転用する。安い工費で余剰工水の活用と塩害防止が可能としている。

A案は、一時的に海水が流入して大量発生、淡水に戻った後も漁獲可能だった秋田県・八郎湖のヤマトシジミの前例を参照している。B案には時間が必



弾力的運用を要望された常陸川逆水門＝波崎町で

考にした。水門操作規則を改正すれば直ちに実現可能。B案には時間が必要で同基金は、関係者に円卓会議の開催を呼び掛けている。飯島代表理事は「霞ヶ浦水位管理で提案した円卓会議について扇国土交通相が、きょうの参議院決算委員会で『開催したい』と述べた。プロジェクトは環境・水質・生物多様性保全、水資源保護など霞ヶ浦全域にいい影響を及ぼし経済的效果も大きい。ぜひ実現させたい」と話している。